



# 木曾川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

テーマ 「紅葉・黄葉を楽しもう」

日時 2016年11月13日) 9:30~12:00 (晴)

参加者 一般: 3名 (うち子ども1名)

指導員: 4名

秋空のもと、木々の葉がさまざまな彩りを呈しています。川原の草がきれいに刈りこまれていたので、138タワーパーク内を巡って紅葉や黄葉を楽しみました。園内は植樹されているだけに、セイヨウザイフリボク、ベニバスモモといった他所では目にしない樹木の紅葉も見られました。よく見かけるイロハカエデの紅葉とは随分異なる色合いです。

駐車場の間には「ハナノキ」という名札の樹木が鮮やかな赤や黄色の葉を付けていました。普段見るハナノキの葉よりかなり大きく、切れ込み方も深く、ずいぶん雰囲気は違ってきます。



(観察会のようす)

ハナノキはこの地方に

見られる東海丘陵要素の樹木とされていますが、太平洋を隔てて北米にも分布しているので、そちらから持ち込まれたものかもしれません。(タワーの南東には普通に見られるハナノキがあり、比較できます。)

園内ではミズメの葉が黄色に色づき始めていました。幹にかけられた名札が別名の「ヨグノミネバリ」となっていて、間違いではないものの少々興ざめでした。

モミジハフウやトウカエデなどの高木は、1本の木でも部分的に色づいているものがありますが、その位置は樹冠部分であったり、南側であったりします。気温が下がると葉の付け根部分に



(ハナノキの葉 右2枚が普段よく見るもの)

離層ができ、水分や糖分が移動しなくなって葉の中の糖分や葉緑素が分解されて色が変わるので、水分が届きにくいところ、糖分がたくさん含まれているところ、気温が低くなる場所などから発現するのではと思われます。

いろいろな色の葉を眺めながら歩いていると、秋の名残のマユタテアカネやミヤマアカネの姿、ジョウビタキやツグミなどの冬鳥の声も楽しめました。

<観察できたもの>

**紅葉:** ハナミズキ、セイヨウザイフリボク、ベニバスモモ、ドウダンツツジ、ツタ、ヤマハゼ、ニシキギ、ナンキンハゼ、サンシュユ **黄葉:** コブシ、ロウバイ、ムクゲ、メタセコイヤ、ミズメ、エノキ、ムクノキ、ケヤキ、アキニレ、コナラ、クヌギ、クワ、イチョウ、シンジュ、ヌルデ **紅葉&黄葉:** ハナノキ、トウカエデ、イロハカエデ、モミジハフウ、サクラ類 **花:** ブタナ、セイタカアワダチソウ、キダチコンギク、ヒメジョオン、ノコンギク、シロタモ **実:** アオツツラフジ、シオデ、ノブドウ、サンシュユ、ムクノキ

**鳥:** ヒヨドリ、キジバト、トビ、セグロセキレイ、モズ、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、メジロ、ツグミ、ウグイス(声)、コゲラ(声)、シロハラ(声) **虫:** キタキチョウ、モンシロチョウ、ウラギンシジミ、ツマグロヒョウモン、キタテハ、マユタテアカネ、ミヤマアカネ、コバネイナゴ、ヨコヅナサシガメ **その他:** アメリカザリガニ



(上から色が変わりつつあるモミジハフウ)